

令和 8 年 8 月千葉豪雨による大雨の状況について

～「災害をもたらした気象事例」に資料を掲載しました～

令和 8 年 8 月千葉豪雨について、大雨の状況に関する資料をとりまとめました。

気象庁では、大きな被害をもたらした気象事例や社会的な関心・影響が高い気象事例について、気象の状況を取りまとめた「災害をもたらした気象事例」として、ホームページで公表しています。

令和 8 年 8 月千葉豪雨（令和 8 年 8 月 13 日から 8 月 14 日）について、上空の寒気や暖かく湿った空気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、千葉県を中心に大雨となりました。千葉県では、複数の地点で 1 時間降水量や 3 時間降水量などが観測史上 1 位の値を更新するなど、記録的な大雨となり、13 日から 14 日にかけての総降水量が 300 ミリを超えた地点や、平年の 8 月の月降水量の 3 倍以上となった地点がありました。

この大雨により社会的な影響が大きい被害が発生したことから、当時の大雨に関する資料をとりまとめ、「災害をもたらした気象事例」に掲載しました。

<災害をもたらした気象事例（平成元年～本年）>（気象庁ホームページ）

https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/report/index_1989.html

問合せ先：大気海洋部 気象リスク対策課 川崎、天澤
電話 03-6758-3900（内線 4256、4257）